

発行日 令和7年10月15日

文責 寄宿舎 内藤 勝

寄宿舎の内藤です。今回は「視覚障がい支援学校における寄宿舎」というテーマで寄宿舎について御紹介いたします。

はじめに、寄宿舎には大きく2つの役割があります。1つは自宅が遠方のため、毎日の通学が困難な児童生徒に対して生活の場を提供し、学校生活に支障のないようにする通学保証の役割。もう1つは日常生活をとおして、食事・掃除・洗濯・整理整頓など生活に必要なスキルを学んだり、様々な年齢の児童生徒が共に生活することで、人との関わりやコミュニケーションについて学んだりしながら自立と社会参加に向けた力を育む役割です。ときどき、寄宿舎と寮は何が違うのですか?と聞かれことがあります。生活の場であるという点は共通していますが、学校教育との結びつきがより強いのが寄宿舎なのではないかと思います。学校と寄宿舎で一貫した指導・支援を行うため、学校と情報共有や共通理解を行い、そこで得た情報を寄宿舎における日々の生活指導に生かしています。

本校のような視覚障がい支援学校の寄宿舎においては、寄宿舎生活をとおして生活スキルや日常生活動作を習得することが特に重要であると言われています。寄宿舎生は下校してから翌日登校するまでの約15時間を寄宿舎で過ごすことになります。その間に入浴、洗濯、食事、清掃、持ち物の整理、学習、自由時間、睡眠など様々なことを行っています。1日の生活の中で、建物内での移動、寝具の上げ下ろし、洗濯物畳みや片づけ、食事の配膳、持ち物の整理整頓など生活動作を習得する機会が数多くあります。これらは私たちが日常生活の中で何気なく行っていることですが、当事者の方の立場で考えると、生活動作だけでなく空間の把握や物の形状の把握など覚えないといけないことがたくさんあるのではないかと思います。この他にも、自治会活動や季節に応じた夏祭りなどの行事、防災意識を高める避難訓練など様々な活動を行っています。

本校の寄宿舎には今年度新たに中学部生が2名入舎しました。初めて親元を離れ生活環境も変わり、4月当初は戸惑いながらの生活でしたが、日々の寄宿舎生活を積み重ねることで少しづつ生活リズムを形成し、自分に合う方法や動作を探しながら生活しています。今年度は小学部生から成人の理療科生まで寄宿舎に在籍していますので、下級生や上級生との交流も楽しんでいます。

少しでも寄宿舎生活をイメージしていただけましたでしょうか?寄宿舎生は日々の学校生活に加え、寄宿舎でも様々なことを学びながら生活しています。私たち寄宿舎指導員は児童生徒の実態や発達段階に応じて、より適切な支援ができるよう日々支援の改善に取り組んでいます。寄宿舎に興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。